

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390300263		
法人名	株式会社医療給食		
事業所名	グループホームオアシス大空 さくら		
所在地	愛知県名古屋市中区中切町5丁目28番地		
自己評価作成日	令和2年11月17日	評価結果市町村受理日	令和3年5月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療給食であり、高齢者の配食サービスに力を入れている為、食事形態をひとりひとりに合わせて対応することが出来る。
食事レク、おやつレクなど、色々なレクリエーションを通して、利用者間のコミュニケーション、職員とのコミュニケーションを楽しみ、充実した日々を過ごしていただいている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2390300263-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、1ユニット7名の3ユニットで構成されていることで、1ユニット9名のグループホームと同じ職員の配置が行われている。1ユニットの利用者の定員が少ないことで、利用者一人ひとりに寄り添った支援や利用者の意向にも合わせた柔軟な支援にもつながっている。ホームの継続した取り組みとして、毎日のおやつ作りの取り組みが行われており、日常的な利用者とのレクリエーションの機会につながっていると、感染症問題があることで、家族との交流や外出の機会が困難になっている状況の中で、利用者の楽しみの機会にもつながっている。また、ホームの運営母体が高齢者への食事を提供する事業を行っていることで、毎日の食事については、専門の管理栄養士が検討した、利用者一人ひとりに合わせた食事形態等の提供が行われていることも、当ホームの特徴でもある。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和2年12月25日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会社のホームページに掲示しており、誰でもみられるように、職員、管理者は、その理念を共有し、実践につなげている。 実践につなげている。	職員に利用者に対して思いやりを持って接してもらうように分かりやすい言葉で管理者からの働きかけを行い、伝える取り組みが行われている。理念にあたる言葉をスタッフルーム等に掲示する取り組みも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常的ではない。	今年度は感染症問題があることで、地域の方との交流が困難になっている。例年は、ボランティアの方との交流等が行われている。また、ホームの前にある公営住宅の方との行事等に参加する等、地域の方との交流の機会につなげている。	感染症問題があることで地域の方との交流やボランティアの方の受け入れが中断していることもあるため、今後の感染症問題が落ち着いた際には、地域の方との交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の人々に向けてあまり活かしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	サービス向上に活かしている。	今年度は書面による実施となっている。会議を開催する際には、地域の方や家族の参加が得られており、ホームからの現状報告や情報交換を行いながら、出席者にホームへの理解を深めてもらう機会につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	取り組んでいる。	市担当部署や地域包括支援センターとの情報交換等については、関連事業所と連携しながら生活保護の方の受け入れが行われていることもあり、ホーム管理者の他にも運営法人を通じても行われており、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	やむを得ず、身体拘束を行うときは、ご本人の意志を尊重し、チームで話し合いを重ね、ご家族に同意を得ている。 身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者の状況等にも合わせてホームの外に出る機会をつくる等、職員間で連携した支援に取り組んでいる。また、身体拘束に関する委員会の実施や定期的な職員研修が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	全ての職員が学ぶ機会はないが、活用できるよう支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営に反映させている。	現状、家族との交流が困難になっているが、例年は、ホームの行事等を通じた交流の機会がとられている。ホームの玄関等に法人代表者の連絡先を掲示しており、利用者、家族からの要望等の対応につなげている。また、毎月の便りの作成が行われている。	家族との交流が困難になっている状況が続いていることもあるため、家族との情報交換等に関して、ホームの検討等にも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	反映させている。	日常的に職員間で意見交換を行う取り組みを継続しており、職員からの意見等を管理者が把握し、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、申し送りを2か国語で行う取り組みも行いながら、職員間で情報を共有する取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	行えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	向上させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人のできること、やりたいことを見極め、本人を接するようにしている。 関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前のご家族のふれあい方を知ったうえで、本人と関係づくりをする。 努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	安心、安全、安楽の観点に基づいた対応ができるようにしている。 努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の自尊心に配慮した接し方を心掛ける。 築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	一方向の関係ではなく、広い視野で見るような関わりをしていく。 築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	いつまでも相手の気持ちを考えることができるような支援を、人付き合いをしていく。 支援に努めている。	利用者の中には、関係の近い方が関連事業所の利用者であることで、職員も協力しながら関係が継続できるような機会がつけられている。また、例年は、家族との外出も行われており、行きつけの美容院に出かけたり、身内の方との交流も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	本人の今までの暮らし、性格にあった支え方、関わり方を意識している。 支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用が終了しても本人、家族の現状を知り、できることが何かを考えるようにする。 努めていると思われる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人がどういう気持ちで、どういう暮らしをしていて、どうしていきたいか、汲みとれるようにしている。 努めている。検討している。	1ユニット7名のホームである利点も活かしながら、日常的に職員間で情報交換を行う機会をつくり、利用者の意向等を職員間で共有する取り組みが行われている。また、定期的なミーティングを通じた意向等の検討も行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	周りの人の情報、本人の話に耳を傾けている。 把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	今までの情報、周りの人との意見交換、一日の様子をみながら実践している。 把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人はもちろん、周りの家族、スタッフと話し合いを重ね、様々な意見を取り入れて、介護計画に反映している。 作成している。	会議計画は6か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。職員間で介護計画に関する情報を共有することができるように、分かりやすい言葉で伝える等、定期的なモニタリングにつなげる取り組みも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	細かな記録を心掛け、そこから情報を得て、ケアに繋がる。 実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	今は、外出、面会制限等により行っていないが、以前はギターやバイオリン等の演奏家を招き、音楽鑑賞、合唱をしたりした。地域資源の把握に努めているが、繋がりがあまり無い様に思われる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人の状態の変化があれば、かかりつけ医に相談、連絡をし、指示を仰いだりし、関係を築いている。そのように支援している。	協力医との定期的及び随時の医療面での連携が行われており、ホームからの受診支援の対応も行われている。また、看護師が勤務しており、利用者の健康状態に関する定期的な報告が行われており、医療面での支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の変化や気づきを、職場内の看護職に伝え、相談し、適切な受診、看護を受けられるようにしている。そのように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行えているように思われる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化、終末期には、職員、管理者、ご家族、医師等、話し合いをし、これからどう本人を支えていくかを共有し合っている。支援に取り組んでいる。	身体状態が重い方もホームでの生活を継続することができるように支援体制がつくられており、利用者の中にはホームで最期を迎えている。当ホームの関連事業所として特養も開設されているが、当ホームで支援する体制がつくられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	社内で救命講習を開き、職員へいざというときに備え、指導し、訓練を行っている。(AEDの使い方、心肺蘇生法など) 行えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防隊員に来てもらい、緊急時の行動や避難場所を確認している。全職員が身に付けていない。地域との協力体制は不明。	年2回の避難訓練が行われており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われており、職員間の連携につなげている。障害の方の支援事業所を併設していることで、事業所間での連携も行われている。また、水や食料等の備蓄品の確保も行われている。	近隣の方との協力関係については、継続的なテーマでもある。当ホームの関連事業所との連携も含めて、近隣の方との継続的な協力関係の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	目上の方に対しての言葉掛け、言葉遣い、心遣いに配慮しながら支援している。対応するよう心掛けている。	職員間で利用者への対応や言葉遣い等を共有することができるように、ホームでは、「思いやり」「笑顔」等、分かりやすい言葉で伝える取り組みを継続しており、管理者からの注意喚起等にもつなげている。また、職員研修等を通じた振り返りも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	何かすることに対し、本人様を選ぶことができるような声のかけ方を意識している。そのように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	そのように行えるよう、支援に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴後や外出時の服を選択してもらい、ご本人らしい身だしなみをして頂いている。そのように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の配膳、準備、片付けなどを一緒にし、利用者と職員が食事を楽しんでいる。先に準備する事はあまり無い。片付けは一緒に行く。(一部の方と)	毎日の食事については、運営母体の専門の管理栄養士が検討した食事の提供が行われており、利用者の健康状態や身体状態に合わせた食事形態の提供も行われている。また、毎日のおやつ作りが行われており、利用者の楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	時間を決め水分の促しを行う。本人の飲みたいものを聞いて飲んでもらっている。そのように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	その人に合った歯ブラシ、スポンジを使い、歯科医の指示による仕上げ磨きを行っている。行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄パターンを把握し、時間による声掛けをしている。本人のしぐさ表情に目を向けながら支援することを意識している。自立に向けた支援を行っている。	利用者の排泄記録を残し、日常的に職員間で情報交換を行いながら、利用者に合わせた排泄支援が行われている。運営母体とめ連携しながら利用者の排泄状態に合わせた食事の工夫や看護師による排泄に関する医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	乳製品の提供、体操をすることで、排便を促している。そのように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	基本的な入浴時間は決まっているが、お湯を一人ずつ入れ替えて気持ちの良い入浴を心がけている。午前中になるべく入浴する流れになっているが、問題なく行えている。	利用者が週3回を基本にした入浴支援が行われており、入浴を拒む方にも声かけを行い、定期的な入浴に取り組んでいる。利用者の身体状態に合わせた職員2名での支援や季節等に合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	お昼寝の時間に決めたりし、夜、気持ち良く眠れるように支援している。そのように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	本人の状態に合わせ、処方される薬の効用、開始日、終了日、経緯を踏まえ、スタッフ間で、朝礼等で共有している。そのように行い、変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	散歩、喫茶店等に行き気分転換を図っている。又、プランターで園芸(土いじり)をしたりしている。気分転換の支援は行っていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	順番で散歩に行ったり、レクで紅葉狩りに行ったりしている。現在は、エントランスでベンチを置いて、日向ぼっこをしたりしている。コロナ禍、戸外に出かけていない。	現状の感染症問題があることで、利用者の外出が困難になっているが、日常的にホームに出て花壇の手入れ等が行われている。例年は、関連事業所と連携しながら自動車を確保する取り組みが行われており、利用者の外出行事等が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を所持したり使えるように支援はないが、コロナ前は共に買い物に行っていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望に沿って、手紙、電話連絡をしたりしている。 そのように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	一人一人に合った温度や光に配慮した空間づくりをしている。その日ごとに季節感を取り入れている。 そのように工夫している。	ホーム内は限られた広さであるが、7名の利用者がゆったりと過ごすことができる空間が確保されている。リビングの壁面には、季節感のある飾り付けや利用者の作品の掲示が行われており、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間の中で独りになれる居場所はない為、居室か、トイレに行かれる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室や表札のところに、自作の飾りを飾ったりなどし、心地良い空間づくりをしている。 そのように工夫している。	居室については、利用者や家族の意向にも合わせた使い慣れた家具類や好みの物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、家族の写真や自身の作品の掲示等も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	そのように工夫している。		